

タイトル名	ソフトウェア品質の最適化に向けて～テスト工程における課題と解決策～
企業名/団体名	日本ヒューレット・パカード株式会社
代表者氏名	山下浩幸、古山雄吾
<p><b>概要</b></p> <p>次の製品により、テスト工程における課題に解決策を提供します。</p> <p>HP QuickTest Professional は、機能テストや回帰テストを効果的に行う自動機能テストソリューションです。受け入れテストやシステム変更で発生するテストを自動化することで、人為的なミスを排除し、かつ効率的なテストを実施することができます。</p> <p>HP LoadRunner は、アプリケーションのパフォーマンスを検証するための性能検証ソリューションです。数千、数万といった大規模仮想ユーザをエミュレートするだけでなく、負荷対象サーバーのモニタリングを実施することで、ボトルネックを特定することを可能にします。</p> <p>HP QualityCenter は、テスト要件、テスト計画、テスト実行、不具合までのテストプロセス全体を一元管理します。また、再利用可能なプロセスを提供することで、高品質なアプリケーションを迅速かつ効率的に導入することができます。</p>	

タイトル名	テスト部隊立ち上げに至る“いばらの道”
企業名/団体名	三菱電機メカトロニクスソフトウェア株式会社/TEF 東海
代表者氏名	都築 将夫
<p><b>概要</b></p> <p>近年、組み込み系ソフトウェアは、大規模かつ複雑になっている。</p> <p>その結果、機能テストやシステムテストの段階で、不具合指摘をしても、市場不具合が散発しているのが現状である。</p> <p>背景には、多くの開発者がソフトウェアテストに対する誤った認識があり、ソフトウェアテストに対し、軽視されることが挙げられる。</p> <p>例えば、</p> <p>「ソフトウェアテストは、技術をあまり必要としないので、新人や派遣社員が簡単にできる。」</p> <p>「ソフトウェアテストは、チェックリストをレ点で埋めるようなものだ。」等々。</p> <p>そのため、当時の私は、「ソフトウェアテストは、市場不具合で経済的損失を与えないようにする最後の砦でないか？」と、開発者の認識について、疑問に持った。</p> <p>そこで、自らソフトウェアテストの重要性について学び、自部署のソフトウェア開発者に、ソフトウェアテストの役割を1～2年の間、粘り強く話し続けて得られた成果を述べる。</p>	

タイトル名	AiA PM コンテスト 2010
企業名/団体名	株式会社ソフトテックス
代表者氏名	池田 忠
<p><b>概要</b></p> <p>弊社は昨年、AiA PM コンテスト 2009 に出場し走行部門で優勝しましたが、PM部門では良い成績を残せませんでした。</p> <p>今年は、走行部門2連覇とPM部門3位以内を目標としています。</p> <p>今年のPM部門はPMBOKの9つの知識エリアのうち「プロジェクト・統合マネジメント」、「プロジェクト・スコープ・マネジメント」、「プロジェクトタイム・マネジメント」が審査対象です。</p> <p>走行ロボットは、プロトタイピングで試行錯誤しプログラミングおよびテストを繰り返し性能および品質向上に努めました。</p> <p>またメンバー構成は、事業部の枠を越えたプロジェクトチームを結成しました。</p> <p>弊社としては初めての試みです。</p> <p>このように、コンテストを通してPM力や組織力の向上を行っています。</p>	

タイトル名	「すべてのソフトウェア技術者に品質技術を！ (財)日本科学技術連盟が推進するソフトウェア品質向上活動と ソフトウェア品質技術者資格制度」
企業名/団体名	日本科学技術連盟
代表者氏名	安随正巳
<p><b>概要</b></p> <p>(財)日本科学技術連盟は、総合的品質管理(TQM: Total Quality Management)の普及を中核として、デミング賞の創設等を通じて産業界の品質向上に貢献して参りました。</p> <p>ソフトウェアに関する分野でも、ソフトウェアの品質管理の必要性・重要性に鑑み、1980年から調査・研究活動を進めて参りました。</p> <p>品質を実現する行動原理として「顧客志向、顧客中心」、「システム志向、プロセス重視」、「ひと中心」、「自己変革」を掲げています。</p> <p>その実現のための手段であるソフトウェア品質に関する資格試験や『ソフトウェア品質知識体系ガイド(SQuBOK)』製作などの取り組みについて報告をします。</p>	

タイトル名	JUnit と testNG、テストフレームワークの比較検証
企業名/団体名	オージス総研
代表者氏名	佐藤 梨江
<p><b>概要</b></p> <p>ある情報誌が実施したアンケートでは、Eclipse ユーザーの 70%が利用しているテストツールとして xUnit を挙げている。その代表と言えるのが JUnit だが、2006 年にリリースされた JUnit4 では、アノテーションに対応したり、例外のテストが簡単になったりと多くの機能が追加されている。</p> <p>そして、JUnit4 に少なからず影響を与えたといわれているのが、testNG というテストフレームワークだ。</p> <p>testNG は海外で高く評価され、国内でも関連する記事を見かける事が多くなってきている。</p> <p>では、testNG が JUnit4 に与えた影響とはどのようなものなのか。</p> <p>また、バージョンアップした機能によって、テストそのものはどれだけ便利になっているのだろうか？</p> <p>今回は JUnit3 と JUnit4、testNG について実案件で実装したクラスに対してテストクラスを作成し、比較検証した結果を発表する。</p>	

タイトル名	ベリサーブによる「第三者検証サービス」のご紹介
企業名/団体名	株式会社ベリサーブ
<p><b>概要</b></p> <p>市場ニーズに応じ、様々な製品の高機能化・高性能化が進む中、これを構成するソフトウェアも複雑化・規模拡大の一途をたどっています。</p> <p>しかしその一方で、更なるコスト低減、高品質化が求められている最中、ソフト開発現場では、QCD 改善を目指し様々な施策を検討・実施する上で、ソフトウェアへの「第三者検証の重要性」が高まっています。</p> <p>私どもベリサーブは、各企業様でのQCD改善に寄与すべく、370社以上の企業様での業務実績と、学識経験者を交えた研究活動を通じ研鑽した弊社検証技術を元に、様々なサービスをご提供致しております。</p> <p>今回のポスターセッションでは、各企業様での課題をお伺いし、課題解決に向けて、共に考える場になりたいと考えています。</p>	

タイトル名	テスト技法を通して原因分析をしてみよう！
企業名/団体名	TEF東海 大野道場（連絡先: ps_teftokai@googlegroups.com）
<p><b>概要</b></p> <p>大野道場は、TEF東海の分科会的位置づけの活動で、テスト道を鍛錬すべく有志の集まりです。世の中の実際の失敗事例を元に、テストの「技」を通し、以下を考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなテストしていれば、この問題は見つけられたのか？</li> <li>・そのテストケースは、どんなテスト技法を使うと設計できたのか？</li> <li>・技法は単一でよいのか、複数の組み合わせが必要か。技法の適用に工夫は必要か？</li> </ul> <p>先輩から基本となる型を学び・・・</p> <p>自分なり技(意見)をぶつかり合わせる乱取りを行い・・・</p> <p>と、まさにテスト道を究める鍛錬の場、座学ではなく、頭・体を動かし、技術を体得していく場となっています！</p> <p>#当日は、いままでに、挑戦してきた失敗事例を、ご紹介します。</p> <p>さあ！みなさん！一緒に悩み、考え、生きたテスト道を体得しましょう！</p>	

タイトル名	ソースコード品質評価ツール Adqua のご紹介
企業名/団体名	株式会社オージス総研
<p><b>概要</b></p> <p>Adqua はソースコード(C 及び C++)の品質を客観的に評価できるツールです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・品質の得点化 <ul style="list-style-type: none"> <li>ソースコードを評価し、品質特性の観点(「信頼性」、「効率性」、「保守性」、「移植性」、「再利用性」)で得点化します。これにより、品質を定量的かつ簡潔に把握できます。</li> <li>また、これまで測定した130を超えるプロジェクトの結果をもとに評価基準を定めているため、精度の高い評価ができます。</li> </ul> </li> <li>・問題箇所の特定 <ul style="list-style-type: none"> <li>ソースコード全体の品質から、要素の品質へトレースできます。問題のある要素をトレースすることにより、問題箇所の特定ができます。</li> </ul> </li> <li>・依存関係の解析 <ul style="list-style-type: none"> <li>要素間の依存関係を解析し、DSM を CSV ファイルとして、UML モデル定義を XMI ファイルとして出力します。依存関係が複雑な要素を容易に特定できるため、設計レベルの問題の発見や改善に有効です。</li> </ul> </li> </ul> <p>無償です。但し、1 年間に 1 件以上の測定データの提出をお願いします。</p>	

タイトル名	TEF 東海スピニアウト企画「メトリクス勉強会」の紹介
企業名/団体名	TEF 東海 メトリクス勉強会
代表者氏名	小池 利和
<p><b>概要</b></p> <p>メトリクス勉強会は、TEF 東海の分科会となります。</p> <p>TEF 東海の中にはテストだけではなく品質全般に関心を持つメンバーが多く、このような企画が立ち上がりました。</p> <p>以下のロードマップを考えており、現在フェーズ 1 を実施中です</p> <p>フェーズ 1: 参考書を用いて輪講や演習</p> <p>フェーズ 2: 各社で用いているメトリクスを紹介しあう</p> <p>フェーズ 3: メトリクスを用いたテスト管理手法を実践</p> <p>具体的な進め方は、書籍「演習で学ぶソフトウェアメトリクスの基礎」を用いて浜松または豊橋で、1～2ヶ月に1回という頻度で輪講を実施しています。</p> <p>1回で1つの章を目安に、参加メンバーで分担して、事前に内容のまとめ、演習問題を提出し、それらを元に議論します。演習をこなし、議論の中で各社の事例などを知ることによって書籍を読むだけよりも、更に理解が深まります。</p> <p>著者である野中先生や鷺崎先生をご招待することも検討中です！</p> <p>参加希望の方は TEF 東海に入会をお願いします。</p>	